

【学習指導案作成上の留意事項】

- 1 書式は固定的なものではなく、教科等の特性に応じた書式にする。(各教科の指導案を参照)
- 2 次の点が学習指導案から読み取れるようにする。
 - (1) 指導者が本単元で児童生徒に伸ばしたい資質・能力を把握しているか。
 - (2) 指導者が本単元に関わる児童生徒の実態を把握しているか。
 - (3) 指導者が教材観及び実態を踏まえて指導方針を立てているか。
 - (4) 指導計画を適切に作成しているか。
- 3 〔邑楽郡学校訪問指導における一般授業の場合〕 4 ページ程度にまとめる。

○ ○ 科 学 習 指 導 案

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時 〇年〇組 (〇〇教室) 指導者 〇〇 〇〇

1 単元(題材)名 ○〇〇〇〇

2 教材観 ※ 簡潔に書くようにする。

- (1) 学習指導要領上の位置付け
- (2) 単元(題材)の価値

※ 本単元(教材)を取り上げる意義などを記述する。

(3) 今後の学習への活用

※ 本単元での学習が、今後の学習や他学年の学習及び生活にどう活用されるのかを記述する。

3 児童生徒の実態及び指導方針 (〇名)

(1) 既習の学習内容や活動

※ 本単元を指導する上で参考となる既習の学習や活動を記述する。

(2) 本単元に関わる児童生徒の実態

※ 本単元のねらいや学習活動に関わる実態を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で記述する。

(3) 指導方針

※ 伸ばしたい資質・能力、既習の学習内容や活動、実態を踏まえ、単元全体に関わる指導上の工夫を記述する。

【校内研修の検証や成果発表の授業の場合】

※ 「校内研修とのかかわり」を4番として位置付ける。

4 単元(題材)の目標

※ 教師の立場で記述する。

※ 学習指導要領の内容を受け、伸ばしたい資質・能力を明確にし、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3観点で記述する。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①	①	①
<p>※ 評価規準の設定に当たっては、国立教育政策研究所作成の各教科の『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（R 2.3）を参考にして適切に設定する。</p>		

6 指導計画（全○時間予定）

○：記録に残す評価 ・：指導に生かす評価

学習過程	時間	○ねらい ・学習活動	・主な指導上の留意点	評価の観点
		<p>※ はばプラⅡの「単元のつくり方」等を参考に、単元を構成する。また、単元の課題を明記する。</p> <p>※ ねらいや学習活動は、端的に記述する。</p> <p>※ 複数時間をまとめて記述したり、本時に関わりの少ない時間を省略したりするなど工夫をする。</p>	<p>※ 最も中心的な留意点に絞って記述する。</p>	・思①
			<p>※ 記録に残す評価場面を精選し、位置付ける。</p>	
<p>単元の課題：（単元を通した課題を設定し、記述する。）</p>				

7 本時

(1) ねらい

※ 教師の立場で記述する。

例：「～を通して、～できるようにする。」

(2) 準備

※ 「教科書・ノート・ICT 端末・大型提示装置」は書かない。ここで書かれたものほどのように使われるのかがわかるように、「(3)展開」や「8板書計画」の中に記述する。

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点及び支援・評価
・予想される児童生徒の反応	◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価
1 ○○する。（○分）	○
<p>※ はばプラⅡ（ICTversion 含む）の「単位時間のつくり方」等を参考にし、主体的・対話的で深い学びになるように計画する。</p> <p>※ 児童生徒の立場で記述する。</p> <p>※ 児童生徒の思考の流れを予想し、主な発問（T）や主な反応（S）も記述する。</p>	<p>※ 主体的・対話的で深い学びになるように、どんな工夫をしていくのか記述する。</p> <p>※ 活動を入れる場合には、どのような目的で、どのように学びを深め、ねらいに迫るのか等の視点からも記述する。</p> <p>※ 「～できるように、～する。」のように教師の意図と手立てを明確に記述する。</p> <p>※ 実態を踏まえたり、つまづきを予想したりし、具体的な支援を記述する。</p>

8 板書計画

※ 児童生徒の思考の流れが分かるような板書にし、見方・考え方を可視化する。

※ 実際に板書をし、写真を貼り付けると分かりやすい。